

1 学期終業式講話

今年も暑さが厳しいため、放送での終業式となりますが、通常の終業式同様にしっかり私の話を聞いて理解してください。

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、実質6月から2ヶ月余りであった1学期が今日で終わります。世間はやや落ち着いてはきているものの新たな生活様式の導入などと叫ばれ、私たちの生活自体を変えていかなければなりませんし、今後も新型コロナウイルスとつきあっていかなければなりません。これも時代の要請と受け止め、皆さんには社会的責任があることをも自覚し、きちんと対処してほしいと思っています。

さて、中国の書物である老子の第24章に、『企(つまだ)つ者は立たず 跨(また)ぐ者は行かず 自ら見(しめ)す者は明らかならず 自ら是とする者は彰(あらわ)れず 自ら伐(ほこ)る者は功なし 自ら矜(ほこ)る者は長ぜず』云々とある。どのような意味かという、『背伸びをしてつま先だてば、しっかり立つ事も出来ない。大股で歩けば、疲れてしまって歩き続ける事も出来ない。自らこれが正しいなどと吹聴するものは、明智の持ち主とは言えない。自らを是とするものは、広く世にあらわれることはない。自惚れが強いものは、他から褒め称えられる事は無い。慢心の強いものは、それ以上成長する事は無い』と。

未来を見通すことが困難な時代にあって、『つま先立ちでずっと先を見ようとするれば、ぐらぐらしてしっかりと目標が定められない、また、先を急ぐばかりに大股で歩もうとすると、大切なことを見逃し、結局、本当に目指す目標には届かない』など、要は焦らず、急がず、自然体でいくしかないといったところでしょうか。そうすることによって、心に余裕ができ、長い目で見ればよかったと思えるのかなと考えます。

もう一つ、『置かれた場所で咲きなさい』という本がありますが、皆さんは知っていますか？著者である渡辺和子先生は岡山のノートルダム清心女子大学で、「人格論」という授業を教えているシスターです。この本の中に次のような一節があります。「人間は、一人ひとり『人格』『パーソン』だ」と。「自ら判断し、その判断に基づいて選択、決断し、それに対して責任をとる、そういう人がパーソンと呼ばれるに値する」と述べています。

「人格」である限りは、あなたと相手は違いますし、違っていいのです。相手もあなたと同じ考えを持たないのは当たり前。作家の武者小路実篤さんの

言葉に、「君は君、我は我也されど仲よき」という言葉がありますが、高校時代は、思春期後期の年代に当たり、様々な葛藤の中で自らの自我を確立していく時期となります。きっとこの中には、自分の立ち位置を見つけられずに悩んでいる生徒もいるはずです。特に、女子生徒の集団では、「同調圧力」が強く、周りに合わせないと、仲間はずれにされることを極端に恐れます。クラスが嫌だ、学校に馴染めないということも起こりがちですが、皆さんからは、しっかりとした自分を持って、生活をしてほしいと思っています。そして、自分を認め、相手のことを認め、お互い尊重しあいながら学校生活を送ってほしいと考えています。

私は、今年度末で37年間の教員生活にピリオドを打つことになりましたが、集大成などと肩肘張らず、今皆さんに話したように自然体で、そして、皆さん一人ひとりを認める中で、職責を全うしたいと思っています。

新学期にたくましく成長した皆さんに会えることを期待しています。